世界に発信！　～協会ホームページを開設～

深川国際交流協会広報部会からのお知らせ

協会設立から4年が経過し、21世紀という新たな時代を迎えました。
市民レベルの国際交流を推進するため、様々な事業を実施してきた深川国際交流協会では、このたび、キャッチフレーズでもある「世界に発信する深川地球市民」をめざして、ホームページを開設しました。
今後は、市内に限ることなく姉妹都市アボツフォード市、そして世界と相互に交流を図り、国際化をめざします。
ホームページのアドレスは、 http://www.kijinkobo.com/fukakoku/ です。
まだ、開設したばかりですが、みなさんのご意見、ご感想により、一層充実したページにしたいと思っています。
みなさんのアクセスをお待ちしています。

海外派遣事業報告会開催される（’00青少年カナダ交流訪問団報告会）

深川国際交流協会海外交流部会長　宮田嘉明

2000年7月27日から8月11日の行程で実施された、青少年海外派遣事業（青少年カナダ交流訪問団）の報告会が、2000年の11月19日に開催されました。その模様を当協会海外交流部会長の宮田さんに報告してもらいます。

“Shake Hands 2000!!”をスローガンにひとりひとりの思いや、みんなが共通する思いを体一杯に感じて、帰深した10名の団員は、事後研修を重ねて「報告書」を作りあげました。
また、報告会をそれぞれ分担することや、スライドフィルムにより、彩りを添えることなどを工夫して、11月18日にリハーサルを経て、翌19日の報告会に臨みました。
その日は、希な大吹雪！会場のホテル深川まで悪戦苦闘で辿り着きましたが、そんなアクシデントもあってか参会者は、協会関係者が主で少し淋しさもありましたが、団員の発表力は見聞きする者にとって感銘深いものがありましたし、頼もしさも感じました。
スライドフィルムのコマ送りのたびに、思い起こすこともあって、団員自身が心のポケットの温もりを感じることもしばしばで、ゆるやかで良い報告会であったと思います。
協会正副理事長のごあいさつや感想は、アボツフォードの情景を熟知されているだけに、団員にとって親近感がありましたし、この場をセットしてくださった関係者に団員・引率者は心から感謝しています。
なお、2000年団員は、その後「はまぐりの会」（これには現地で色々と訳あり。広報誌前号にその謎が隠されています。）と命名した会をつくり、節々に集い、親交を深めておりますことを付け加えながら報告の概要といたします。

国際理解講演会開催される

深川国際交流協会国際理解部会長　中川良平

2000年の11月19日、国際理解部会の企画で『国際貢献て何だ』をテーマに、国際理解講演会が開催されました。その模様を部会長の中川さんに報告してもらいます。

11月19日、講師に深川青年会議所の水上真由美さんを招き、青少年カナダ交流訪問団報告会の後をうけて、「国際貢献て何だ」と題し、タイでの活動を中心に勉強会的な進行で行われました。
国際的な問題が、地域にも直ぐに波及する時代。地球市民としての意識、国際感覚を身につけることが急務だと感じました。

シリーズ⑧

深川国際交流協会広報誌“わくわく国際交流”では、姉妹都市・アボツフォード市のあるカナダのフレーザー・バレー地方のことを知るために、“カナダのフレーザー・バレーってなに？”をシリーズで掲載しています。今回で8回目の掲載になります。
今回は、学生の引率で3週間にわたりフレーザー・バレー大学を訪れた田中さんと、交換教授として4ヵ月間フレーザー・バレー大学で日本語教育の授業を担当している橋本さんに、寄稿していただきました。

カナダのフレーザー・バレーってなに？⑧

危機を救った日本食

拓殖大学北海道短期大学　田中慎吾

2000年の8月24日から9月14日までの3週間、私ともう一人の教員の引率で、学生9名とカナダに行ってきました。また非公式ではありますが、私の妻と子供2人（4歳と1歳）もいっしょに連れていきました。研修ではフレーザー・バレー大学で英語の勉強をしているか、施設見学でアボツフォードから出てしまうことが多いので、アボツフォードのことで印象深いものは、夜に戻ってくるホテルで家族と過ごしたことや、ホテルの周りのことになってしまいます。
ホテルの名前はトラヴェロッジ（Travelodge）。大学には近いのですが、街の中心からは離れていて、中心に歩いていくには遠く、バスを利用するにも子供がいるとおっくうになってしまい、ホテルの周りで用を済ましてしまう生活でした。ホテルの周りにはいろんなお店が揃っていました。
レストラン、フードセンター、1$ショップ（日本でいう100円ショップ）・酒屋・ビデオレンタル・寿司屋・銀行・ベーカリー等。特に利用した、というよりもお世話になったのが、フードセンターでした。
ホテルは新しく、とてもきれいでした。室内プールもありました。ところが部屋には台所があるものの、調理器具が電子レンジとコーヒーメーカーしかありませんでした。つまり炒める料理ができないのです。私は3週間しか滞在しないのだからと、それほど深刻には考えていませんでした。それが思わぬサバイバル生活を強いられることになるとは・・・。
アボツフォードに到着した時は、4月から7月にかけて深川に来ていたマッコールさん家族が気を使ってくれて、日本人の口に合うような食べ物を近くにあるフードセンター（お店の名前は「SAVE-ON-FOODS」）で用意してくれました。私達は毎日そこで食料を買いましたが、初めの1週間はビックリの連続でした。たとえば、
・でかい牛乳（4リットル）
・はじめから食べられるように切って袋に入れてあるレタス（こりゃ主婦は楽だわ）
・バケツ大の容器に入ったアイスクリーム（洗濯用の粉石鹸と思った）
・メチャメチャ甘いラズベリーケーキ（一口で胸一杯）
・日本に無い味のハーゲンダッツ（スポンジケーキとか入っていておいしい）
・ダミーのハンドルが付いた、子供を 2～3 人乗せられる買い物カート（長すぎて運転しにくいが、子供にはうけていた）
これらは私達を楽しませてくれましたが、私達には深刻な問題がありました。それは子供がお菓子ばかり食べて、味のあわない食事を嫌がることと、ホテルに電子レンジとコーヒーメーカーしか無いことでした。その点で非常に助かったものが、
・インスタントラーメン（さっぽろ一番）
・インスタント味噌汁（永谷園）
・うどん
・とうふ（なんか怪しい）
・寿司（コンビニで売っているようなもの）
これらの調理方法は想像にお任せしますが、とにかく日本食（らしきもの）が売っていたことは私達家族を生命の危機から救ったのでした。（大袈裟でしょうか）
それともう一つ。このお店には値段が2種類ありました。メンバーズカードを持っている人は安い方の金額で買えるのですが、カードを作るのは簡単な様です。なぜなら英語があまりできない私の妻が、すぐに作ってきたぐらいですから。（値段に対する執念か？）

アボツフォード滞在記あれこれ　～Part1

拓殖大学北海道短期大学・深川国際交流協会理事　橋本　信

家族で４ヶ月アボツフォードに住む！？

私はいま家族とともにカナダのアボツフォード市にいます。拓殖大学北海道短期大学（北短と略称）とカナダのブリテイシュ・コロンビア州立フレーザー・バレー大学（UCFV と略称）の姉妹提携にもとづく交換教授として、昨年 12 月 21 日に日本を発ち、UCFV 本部所在地のアボツフォード市で家族とともに生活することになったのです。週 2 回の日本語教育の授業が交換教授としての私の仕事ですが、家族と一緒に 4 ヶ月滞在し、いわばカナダならではの生活を体験しています。ここではその体験のあれこれを綴ってみたいと思います。

アボツフォード市って何？

アボツフォード市は北短と UCFV の大学間姉妹提携もきっかけになって、深川市と 1998 年に姉妹提携しています。最近更新されたアボツフォード市のホームページでもこの姉妹提携のことがのっています。それによると、この姉妹提携は二つの市が地理的にも経済的にもよく似ており、当然の選択である、ということです。確かに、バンクーバーを札幌に、フレーザー川を石狩川に、アボツフォード市を深川市に置き換えると、地理的な配置がよく理解できますし、北海道と姉妹提携にあるアルバータ州よりもブリテイシュ・コロンビア州の方が気候的にも似ています。

カナダはスキーリゾートで有名なので、寒くて雪が多いという印象を持つ人が多いと思いますが、ブリテイシュ・コロンビア州（B.C.州と略称）南部の都市ビクトリアとバンクーバー圏（グレート・バンクーバーと言われ、人口約 200 万人）、そしてアボツフォード市（北緯 49 度）を含むフレーザー・バレー地方は雪がほとんど降らない温暖な地域です。この地域がおそらく北アメリカ大陸で一番北海道に似た気候風土ですが、その類似性から北海道の 12 月から 2 月の気候を除外しなければなりません。

フレーザー・バレー地方と書きましたが、この地域はアボツフォード市、チリワック市、ミッション、ホープ、ケント、ハリソン・ホット・スプリングの 6 つの自治体からなっており、そのうちのアボツフォード市・チリワック市・ミッション・ホープの４つの自治体に UCFV のキャンパスがあります。アボツフォード市はこのフレーザー・バレー地方の中心都市で、UCFV の本部所在地でもあるのです。

市の人口は１１万７千人（2000 年推定値）で、最近人口増の伸びがやや鈍っているとはいえ、カナダの人口急増地域の一つで、2021 年には 19 万 3 千人になると見込まれています。アボツフォード市はバンクーバーのベッドタウン（a bedroom community of Van- couver）と思われていますが、実際の通勤先は直ぐ隣のラングレーとサーレーがそれぞれ１０％と６％で、バンクーバーには 3%の割合で、大多数がアボツフォード市に職場を持っています。1996 年の統計では、1 世帯あたりの平均年収が約 5 万カナダドルです。年収や不動産を含む 1 世帯あたりの総資産（net household worth）のカナダの平均が 8 万 1 千ドルですが、B.C.州は 9 万 5 千ドルで、オンタリオ州（10 万 1 千）・サスカチュワン州（9 万 7 千）・アルバータ州（9 万 5 千）に次いで裕福な州、という統計が出ています。先ほど温暖な地域として挙げた所は B.C.州の平均値を上回っていると思います。人口が急増していて裕福な地域となれば、家を持つ値段も高くなります。5 年前に 8 万ドルで持てた家がいまでは 15 万ドルもする、という声を聞きました。

市の経済と産業の様子は労働者人口の特徴である程度分かります。働く人の職場のベストファイブは製造業、小売業、農業、健康・福祉サービス、建設業です。1991 年から 1996 年の 5 年間では、このベストファイブの中で製造業が小売業を抜いて 1 位になり、建設業が 3 位から 5 位に下がる、という点に変化がありました。

その他思いつくままにアボツフォード市の特徴を挙げて見ると、国境の町だということです。アボツフォードを経由してアメリカに入るルートが意外と知られているようです。また、アボツフォード市は鉄道・バス・トラック交通の拠点でもありますが、立派な空港の存在と航空分野の拠点であることが大きな特徴です。アボツフォード空港からビクトリア・ナナイモ・プリンスジョージ・カルガリ・エドモントン・レジーナ・ウィニペグ・サンダーベイ・トロントへの飛行機便があります。カナダで有名なパイロット養成学校もあって、航空分野ではかなり知られている所だということを今回初めて知りました。

当然、カナダの他の町と同様に、アボツフォード市もマルチカルチュラルな町（a multi-cultural community）です。市の統計（1996 年）では、生粋のカナダ人（Canadian）11％、イギリス（British）系 10％、インド系（Indo-Canadian）10%、ドイツ系（German）8%、オランダ系（Dutch）6％、複合的出自（Multiple Origins）44%となっており、その多様性と複合性とがよく分かる気がします。それに加えて、UCFV に世界各地からの留学生が来ていますので、英語以外の言葉がたくさん飛び交う場合があり、小さな国際社会が存在していることが実感されます。

アボツフォードの暮らし！？

私たち家族は UCFV 国際教育部の手

配した家に住んでいます。大学に徒歩 15 分の所にある 3 階建ての大きな家で、2・3 階はインド系カナダ人の大家さんが住み、私たちは１階に間借りする形で住んでいます。1 階といっても半地下なので、窓から上が地上部分になります。こちらの住宅を見てみると、住宅の基礎部分に当たる地下室を車庫や物置だけではなく、居住空間としても利用しています。多少大きな家で大家族ではない場合には、地下室の居住空間を貸部屋にするのが当たり前のようです。

生活するためにはまず食事ですが、食料品は当然まとめ買いが一般的です。大きなスーパーマーケットに車で乗り付け、大きなカートでまとめ買いをします。手でカゴを持つのはほんのちょっとした買い物の場合に限ります。いわば北海道の郊外型スーパーでの買い物方式が当地では普通です。物価は日本とほとんど変わりはなく、一部の乳製品・肉製品が安い程度で、食料品を初め日本産のものはかなり高めです。お米とトイレットペーパーの値段が同じようであることは驚きでした。買い物では、いわゆる消費税が合計 14%もかかることがあるので、レジに行って支払うときには金額が一挙に増えたという感じになります。

キッチンはガスコンロもあるのでしょうが、電気が中心のように思います。我が家では電気コンロと電気オーブンで食事を作っています。朝食はカナダの家庭ではシリアルが一般的のようですが、我が家では人気がなく、ご飯かパンです。

クリスマス時期に限らず、七面鳥や鶏が一羽丸ごと売っているので、オーブンが必需品です。必需品はもう一つ電子レンジです。冷凍食品の売り場は野菜売り場の面積を上回るほどにありますから、冷凍食品がカナダの家庭でかなり普及していることが分かります。

カナダでは家の外に洗濯物を干している光景はほとんどありません。それは各家庭には必ず洗濯機とともに乾燥機があるからです。洗濯機と乾燥機は一つのセットと見なされています。5 年前の秋に学生とともに 3 週間滞在したときには、北海道よりも乾燥気候なので直ぐ乾くとのんきに考えていましたが、全くの誤解でした。

UCFV の人たちに、カナダは５月から９月まではとても良い季節だが、10 月から 4 月までは SAD な時期だということを教えてもらいました。SAD という言葉は、一つの単語としては「悲しい」という意味ですが、もう一つ「季節性情動障害」（seasonal affective disorder）の略語でもあり、その二つの意味を込めて言われているのです。この時期は長雨で沈んだ気分になる日々が続くのです。今年は幸いにも雨が少なく、珍しく晴れの日が多いので、私たち家族はとてもラッキーだと言われました。しかし、雨が少ないことは夏の水不足を招きかねないことを意味します。雪がほとんど降らないという長所は同時に短所にもなります。

北海道以上にカナダが車社会であるのは自明ですが、バス交通ではなく、やはり自家用車主体の車社会です。町の商店街の大きさは駐車場スペースの大きさと比例しています。町の中心であればあるほど駐車場がそれだけ大きいわけです。日本車の人気と評判は高く、どこでもよく見かけます。新車や中古車、廃車寸前と見える車、実にいろいろな車が走っています。ガソリンの値段は日本の半額ですが、以前はもっと安く、「高すぎる」という不満の声をよく聞きます。

私たち家族は車を持たないので、歩いたり、バスに乗ったりしています。バス運賃は市内全域均一料金で、小学生から高校生まで一律に同じ student として括られ、65 歳以上のお年寄りと同じ値段で、1 ドルです。この扱い方は映画の入場料なども同じで、カナダ社会の人々に対する待遇の仕方がよく現れています。

（2001 年 3 月 24 日カナダにて）

to be continued（次号へつづく）